

産業経済常任委員会会議録

平成23年11月22日

北見市議会

午前 9時57分 開 議

○（小川委員長） ただいまから産業経済常任委員会を開会いたします。

事務局より諸般の報告をいただきます。

○（辻 局長） ご報告を申し上げます。

ただいまの出席委員数は7名、全員出席であります。

以上であります。

○（小川委員長） 暫時休憩いたします。

午前 9時58分 休 憩

午前 9時58分 再 開

○（小川委員長） 休憩前に引き続き会議を開きます。

それでは、留辺蘂総合支所からの報告を議題といたします。

理事者の説明を求めます。

○（三田総合支所長） おはようございます。現在留辺蘂自治区にあります山の水族館、郷土館につきましては、平成24年7月オープン予定で移転改築事業を進めておりますが、11月1日から6日まで閉館キャンペーンを実施して本年度の営業を終了いたしました。

新水族館につきましては、北見市道の駅おんねゆ温泉条例の一部改正を12月開催の第4回定例会に提案する予定であります。また、水族館プロデューサーの中村元氏から新水族館プロジェクト計画につきまして提案をいただいておりますことから、課長と主幹からそれぞれ報告させていただきますので、よろしく願いいたします。

○（大武課長） それでは、お手元の委員会資料に基づき、ご説明させていただきます。

1ページをごらん願います。1、条例等の一部改正についてでございますが、北見市道の駅おんねゆ温泉条例の施設であります山の水族館、郷土館は昭和53年4月に開館して以来、現水族館での営業につきましては本年11月6日で終了いたしました。新水

族館の移転改築にあわせまして新施設の運営に当たり、主に3点の改正を行いたいと考えております。

1点目は施設の名称変更、2点目は開場期間の変更、3点目は利用料金の年間パスポート導入でございます。

初めに、（1）、施設の名称変更についてでございますが、新水族館はいやしと潤いのある空間、生命観や生きる喜びを再認識する機会を提供し、にぎわいのある水族館を目指すとともに、あわせて温根湯温泉の知名度を上げるため施設の名称を平仮名のおんねと温泉をイメージした漢字で湯とする仮称おんね湯水族館とするものでございます。

次に、（2）、開場期間の変更についてでございますが、新水族館の展示水槽は日本最大級のイトウを展示したイトウの大水槽や滝つぼの水槽のほか、留辺蘂ならではの寒さを利用した凍る川の水槽をつくり、冬の観光資源といたします。このことにより、現行開場期間は11月3日までの夏場開館としておりましたが、新開場期間案では4月1日から3月31日までの通年営業といたします。

次に、（3）、利用料金の年間パスポート導入についてでございます。これまでの利用料金は1回の利用料金と20名以上の団体割引料金でありましたが、さらにリピーター客をふやすことにより入場者増加の相乗効果を図るため、個人の料金区分に年間パスポートを新規追加するものでございます。2ページ目上段になりますが、利用料金につきましては、現行の個人区分料金に年間パスポートの個人別料金の一般、中学生及び小学生料金の新規追加料金案でございます。なお、1回の利用料金につきましては、本年4月に使用料改定をしていることから据え置くことといたします。

次に、（4）、平成24年度の開館についてでございますが、新水族館建設工事は平成24年3月に完成予定としておりますが、新水槽のコンクリート等のあく抜きや水のならしなどを行い、その後に魚を移動して安全を確認するなど、6月末までの約3カ月

間の準備期間を見込んでおります。このため、7月初旬に新水族館をオープンさせる予定でおります。

以上で私からの説明を終わらせていただきます。

○（若杉主幹） 次に、中村元水族館プロデューサーよりご提案のありました新水族館プロデュース計画について、委員会別冊資料に基づき説明させていただきます。なお、この計画につきましても、去る7月8日に開催の講演会で発表され、広く市民に説明されたものにさらに先生自身が加筆修正されたものでございます。

別冊資料1ページをごらんください。計画の項目と初めに記載されております。初めには、新水族館を北海道を代表する魅力ある水族館として生まれ変わらせること、北見市民、北海道民が郷土への誇りを感じるとともに、温根湯温泉の観光再生につながる施設としております。また、寒冷地の特性と豊かな水資源を活用し、日本や世界に類を見ない水族館として誕生させることができると確信しております。

次に、2ページをごらんください。1、新水族館を市民力の創造と温根湯の再生につなげるとしております。新水族館で市民力を創造する、温根湯の再生を図る、自立を図るの3項目について述べております。水族館を動物園や博物館といった子供の教育施設ととらえるのではなく、知的好奇心を満足させる大衆的な文化の一つとして、市民力を創造するでは、市民の精神的ないやしと潤い、市民の自然環境への知的好奇心を芽生えさせ、郷土の自然や文化に誇りを感じる機会と生命観や生きる喜びを再認識する機会の提供を述べています。温根湯の再生を図るでは、展示の中心を北海道の川にすることで北海道内陸部の魅力をアピールし、留辺蘂、温根湯の冬の寒さを観光資源に転換することと温根湯の魅力を水族館でアピールし、水族館の付加価値を高め、温根湯の知名度を上げるとしております。自立を図るでは、通年営業により道内外からの集客力のアップを図るとして、そのためのパブリシティー戦略等によ

って集客を安定的に確保するとしております。

次に、3ページをごらんください。新水族館の達成目標とそのためのポイントについて述べております。中村先生は、オープン時の入館者集客達成目標を10万人とし、その後の安定的に維持したい集客を5万人に設定しております。そこで、現在の山の水族館の現状認識について、魅力が薄く、道内的にも知られていない問題を挙げ、設定した集客目標には、道内全域、道外から集客するにはまず大人が満足し、市民が自慢し、市民が誇りとする展示を開発することが基本であるとし、展示方法や現在保有している生物には日本一や日本初などがあり、それらのPR戦略等について述べております。

次に、4ページから5ページでは、展示理念、リニューアルの基本理念と展示の概要について述べております。基本理念では、日本一、北の大地の水族館とキャッチコピーを設定し、コアコンピタンス、中心的競争力では、川が凍る水槽、滝つぼを見上げて見る水槽、日本最大のイトウの大水槽、日本最大のハイギョの展示、溪流をジャンプする魚の展示などについて6点を挙げ、それらの展示概要について解説しております。

現在この計画に基づき、先生からのアドバイスをいただきながら関係職員で構成する庁内検討会議に加えまして、若手職員によるプロモーションチームを立ち上げ、開館に向けてスケジュールを組みながらPR戦略等の策定に向けて動き出しているところでございます。

以上で新水族館プロデュース計画についての説明を終わらせていただきます。

○（小川委員長） 説明が了しました。

質疑のある方は発言願います。

○（堀川委員） 今の話を聞いていて、整合性がとれない。若杉主幹が説明した中では、名称変更のことが先に説明があつて、それで温根湯温泉という言葉がたくさん出てくるのです。あなたは温根湯温泉の再生のためと言ったのだ。これが当然なのです。

普通なのです。なぜかといったら、観光協会等も温根湯は地名変更になって温根湯温泉になっているのです。国道に表示されている看板等も、開発局等が出しているものも全部温根湯温泉になっているのです。にもかかわらず、あなたたちは山の水族館というものをどういうふう感じていたかは知りませんが、いかにも温根湯の知名度を上げるためにみたいな話で、おんね湯水族館に名前を変更したいと。何か違っていませんか。昔からあるものを私は大事にしたいのですけれども、それだけで物を言っているわけではないのです。

では、なぜ温根湯に温泉とつけたかというのは、やはり温泉があるからということで、地域の皆さん方で温泉をつけたほうがいいとって地名を変えたのです。そうしておきながら、今回のことでは温泉を抜くという。それがおかしいのです。水族館の説明の中では、温根湯の豊富な温泉と書いてあるのです。温泉を利用した中でやっているのですと言っているながら、先ほども正副委員長との事前の打ち合わせの中でもそうだったけれども、結局温泉をつけたら淡水魚ではなくて熱帯魚の水族館のようになるからみたいな話をする。少し違うのではないかと。

ここまでは言いたくないけれども、地元で昔からいる次長から下の人たちは、なくなる郷土館は別としても、なぜしっかりと山の水族館は残してもらいたいと言えないのだ。北見自治区から来ている総合支所長なり課長がトップになると、昔のことは全部排除して自分が思っているとおりにやりたいのは、トップに立つ者の権限なのだ。だからといって、何十年間もこうやってきて、日本にただ一つの淡水の水族館だと私は思っているのです。そう言われて山の水族館とつけたと聞いているのですから。それから同様の水族館がどこかでできていたとしたら、それはわかりませんが、日本にただ一つの水族館なのです。私はそう認識している。なぜそれを簡単に変えようとしているのか、その理由をもう少ししっかり述べてもらいたい。

○（亀田委員） 新水族館プロデュース計画の中で、名称変更も含んだ新しい水族館の誕生を広報なりでパブリシティ効果を上げるとなっているのですけれども、それでおんね湯水族館という名称に変更するという話なのかと思うのですが、前はオホーツク水族館なり、今北海道だとおたる水族館などがありますけれども、あれは海のそばにあるから海洋性の動物なのだというのはわかるのです。ではおんね湯水族館で、淡水の水族館なのか何の水族館なのかということぱっと見たときに認識できるのかどうか。前みたいに山のとついでいけば当然淡水魚なのかとイメージができるのだけれども、その辺についてはどのようにお考えなのか、お伺いしたいと思います。

○（若杉主幹） 今堀川委員から、名称についてなぜ山を取るのか、また温根湯温泉という温泉をつけたものが定着しているというお話がございました。これについては昨年から中村元先生の提言もあったのですけれども、庁内的にも、あと地域的にも議論した経過がございます。名称に当たって、館の名称は第1に場所が特定できることがいいと言われました。例えば下関に海響館とか、山梨のほうに富士湧水の里があるのですが、これは場所が特定できず失敗した例ですという話もありました。それから先生から言われたのは、全国的にも森のとかはごさすけれども、山のとか森のとかは本当に小さな魚しかいらないように誤解されるということでございました。私どもは先ほど堀川委員からご指摘ありましたように山の非常にこだわっているということで、この温根湯温泉街再生整備計画をまとめた温根湯温泉街再生整備検討委員会でも山のや森のというネーミングは非常に水族館としてインパクトがあり、これを大事にしたいと、淡水魚を象徴するために山のということがございました。そういうこともございまして、8月17日に再度再生整備検討委員会を開きまして、皆様にご検討いただいたわけですが、客観的に先生なりが全国から見たときにそういうイメージをされてマイナスのイメージになるのであれば、

先生の意見を大事にしながら、最終的には全員一致で市職員で構成する庁内検討委員会と市の中で協議して決めてくださいということとなった次第でございます。

それで、庁内検討会議では最初おんねゆ温泉水族館というのも議論の中にございました。それで、おんね湯の湯を漢字にしたのは、あえて温泉を湯でイメージしようと。それから、温泉をつけると温泉水で育てている水族館と誤解されるということもありまして、温泉についてはつけないほうがいいのではないかと。ただ、冬の間、現在もそうですけれども、滝の湯の冷泉で養生はしておりますけれども、実際飼育しているのは地下水の淡水であるということもあって、誤解されるのを回避することから温泉はつけなくて、温泉をイメージするために湯を漢字表記にしたということでございます。一般的には、今字名では温泉をつけていますが、観光関連では平仮名のおんねゆ観光協会とかがあります。いろいろ種々検討した結果こういう名前はどうかということになった次第でございます。

以上でございます。

○（鈴木（建）委員） 今回新しく年間パスポート導入ということで、今までで初めての試みかと思うのです。リピーター客をふやすということで年間パスポートという形になったのでしょうかけれども、何がその要素となるかということ、年間でいったら夏の水族館と、それから冬の氷の下の魚の状態を見ることがだと思えます。そうすると、年間2回ぐらいしかないのではないかと気がするので、この辺の説明をもう少ししていただきたい。それと、私はこのジャンプというのは何をするのかと聞いていたので、6月に行ってみるとジャンプ水槽と書いてあって、そこに川魚の魅力、溪流をジャンプする魚と出ていたのですけれども、ヒメマスというのは普通産卵のために遡上するのでしょうか、通常でもジャンプするのですか。どうもその辺のところがよくわからないのです。差別化戦略をしていく上

でもう少しはっきりしたものが出てくるのかと思ったら、私は旭山動物園等をイメージしたわけではないのですけれども、もう少しほかにはない形のもので、例えば毎月なり、四季ぐらいのスパンで集客できるような形にしていったらどうかという気がするのですけれども、年間パスポートについてももう少し詳しくお願いいたします。

○（堀川委員） 今の説明では私は到底納得いくような説明ではないというか、理解できないのです。2ページに自然豊かな温根湯の豊富な温泉と書かれているのです。そうであれば温根湯山の水族館ぐらいつけてくれるのならまだしも、今亀田委員がおっしゃったとおり、先ほど言ったように開発局はみんなおんねゆと平仮名で書いていたものを温根湯温泉に、看板を全部書き直した。国道縁をずっと走っていたら、あなたたちが言うとおりに、温泉はどこにあるのかと、うちは隣だからよく聞かれるのです。温泉と書いてあるけれども温泉施設はどこですかと。そのぐらい、温泉と書くと温泉はどこだと、道の駅に来る人や内地あたりから来る人はそう思うから地元周辺の人はやはり温泉のほうがいいだろうということで、北見市になって地名変更する際に温泉をつけたのだと思うのです。百歩譲っても、この文章等を読んでいても、温根湯の豊富な温泉という、この1項から見ても、少なくとも温根湯山の水族館というのが私は一番適当なところではないかと。もう一度、できれば市民に向かってアンケートなりをして、名称の変更が本当にいいのか悪いのか、観光協会だとか、それに属する活性化委員会だとか、まちづくり協議会等においてどういう協議がなされたのか、その辺もあわせてお聞きしたいです。

○（大武課長） 鈴木委員から年間パスポートについてのご質問をいただきました。

道内の水族館で年間パスポートを導入しているところは、3館ございます。料金設定については、2倍から3倍となっております。そのほか、旭山動物園ですが、こちらでも年間パスポートを導入してお

ります。そこについては、料金の設定は1.25倍、一般が800円のところを1,000円にしていると。あと、先生からあったリピーターは2回以上、2倍以上しますとなかなか購入というか、訪れる人が少なくなるという提案を総体的に勘案して1.5倍という料金設定の案を出させていただいたところでございます。

あと、年に夏と冬2回しか来ないのではないかとということでございますけれども、展示方法、行動展示、そういったものとかイベント等、さまざまな展示の仕方も検討しながら運営に当たっていきいたいということでのパスポート導入でございます。

○(小川委員長) 暫時休憩いたします。

午前10時24分 休憩

午前10時30分 再開

○(小川委員長) 休憩前に引き続き会議を開きます。

理事者の答弁を求めます。

○(三田総合支所長) 名称の件ですけれども、温根湯山の水族館とか、あるいは淡水魚をイメージさせる名称、いろいろご意見がありますので、一度課題として持ち帰らせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○(若杉主幹) 鈴木委員から出ておりましたジャンプ水槽のことですけれども、ジャンプ水槽については現在飼育しているウグイやヤマベ等の魚で実験をしております。先月も先生が来た際に実験をしまして、私は成功したと思うのですけれども、先生は10センチ以上ジャンプしないとだめだということで、再度水族館のほうで主任たちが一生懸命頑張っているところです。現在いる魚で十分、溪流の魚はジャンプするものということで、新江ノ島水族館で中村先生が開発したものを手本としてございまして、それで今擬岩等を含めた中で実験をやっている最中でございます。

以上でございます。

○(菊池委員) 条例改正の中で、冬は閉館だった

ものを通年開館にするということがあります。それは、冬の観光資源という意味だと捉えているのですけれども、外観がどんな色だったか、イメージがないのですけれども、要は雪の真っ白い中に水族館という建物があるというイメージだけで冬に人が来るのかと。やはり水族館の周りに水のエリアがあって、冬でもその中に魚がいるとか、そういうイメージを持ちながら水族館に入ってくるというか、どうも今の状況ですと温根湯温泉に来られた方は何となく興味を持つかなという感じはしますけれども、本当冬の観光資源になるのかということ、私のイメージではなかなかないのですが、あえてこういうふうにしたのはプロデュース計画との関連はもちろんあるのだろうと思いますけれども、その辺の考え方がどういうものかと。

それから、これは多分単純に費用の問題ではないと思うので、参考までに聞きたいのですけれども、冬に開館して営業した場合の経費と冬のために対策をとって閉館した場合の費用などについて算定がありますでしょうか。

以上です。

○(若杉主幹) まず、冬の観光資源で水族館をイメージできるのかという外観の問題も含めてでございますけれども、水をイメージするという部分というのは外においてはありますけれども、外の池は完全に凍るかと思っております。ただ、外観的には全部木でございますので、隣の果夢林の館と同じ木肌といえますか、木目の外観になっております。その周りには若干植栽もしますけれども、冬にこだわっているというのは、先生はこの計画にもありますように、北海道の水族館がほとんど冬は休館する中で、旭山動物園が唯一夏バージョンをやって、1カ月休んで、冬バージョンに変えるということをやっております。この管内の冬の観光資源といえますか、流水観光で来ても温根湯へ来て、果夢林の館等で物販を若干やっていますが、そこへ引き込む観光のとの子が今までないということもあって、冬が目玉の

水族館を特化できないかということでございます。

1つが川の凍る水槽といますか、池が凍る水槽というのは、これは先生が調べたところ世界初になるだろうと。氷の下に魚がどういうふうに生息するのかという部分では、これは目玉になるので、今後そういうだんだん凍るシーズンからマスコミ、テレビ等の取材を受けて、それで引き込んでいくことを目指して冬も営業しようということになりました。

それで、コストの関係ですが、冬と夏でコストの比較をさせていただきましたけれども、光熱水費等では冬にやることによって200万円弱ぐらいの持ち出しになるかと。あとは人件費といますか、魚がおりますから職員がずっといますけれども、もぎりの人とか清掃とかそういった部分を入れまして300万円、全体で600万円程度のコストがかかると。ただ、冬に営業することによって収入も入るだろうということで、単純に1.5倍、夏だけが1とすると冬は0.5オンすると。それだけの収入が入るだろうという見合いを計算させていただいております。

以上でございます。

○（菊池委員） 今、冬の観光資源というお話になったのですけれども、私のイメージは、冬はやはり自然活用型のスポーツと運動というイメージなのです。単純に、要はほかに行くところがないのにそこだけに来るのか、なかなか厳しいのではないかというのが私のイメージなのです。ほかにこちらにはこういうスポーツ系の施設があって、そこに来るときに利用しますというイメージであればそうかと。ただ、現状でいえば温泉利用者が温泉に来る際に寄っていかれる程度だと余り現状と変わらない。確かにあけておけばプラスアルファで人が来る、それなりの方の入込みというのはありますけれども、冬だからというものがあればいいのですけれども、なかなかそういうイメージを持ち切れないというのが私の印象です。

それから、もう一つは、料金を上げないのはいい

のですけれども、これは今の基準に沿ってある程度算定する必要はあると思います。そして、これぐらいの料金になるのだと。例えば全体の費用の何%を使用料でとか、そういうことをやって示しながら、現状はしませんとか、そういう判断をされるのであればいいかと思いますが、その辺はどうでしょうか。

○（堀川委員） 今若杉主幹から、冬期間営業をやった場合に夏場を1としたら冬場することによって1.5になるのだと。この算出についてどこを基準として、どこを見本としてやったのか。これ本当にそうだったらすごいです。1年目、2年目はそうなるかもわからない、それはわからないですけれども、何年かたつことによって、私もいろいろ観光事業をやっていましたけれども、一番いい、物すごく入り込みがいいときでも年間が10として冬場が5なんて絶対にあり得ない、2とか1とかです。従業員の給与も払えるかどうかというようなものだったのです。この何年間は全然1にも満たないような落ち込みですから。これはすごい落ち込みなのです。統計や何かをとっているからわかると思いますけれども、高速道路が帯広市から恵庭市のほうまで開通しましたね。それとか丸瀬布まで高規格道路が来て、それです。ことしの夏のお盆なんかは、道の駅だつてがらがらです。あんな状況を見たのは初めてです。それと、9月、10月になったら、日曜日でも道の駅に車は本当にとまらなくなった。そのぐらい、国道を通る台数は数字的には何十%も落ちているのでないかと。そういうことを鑑みた中での1.5とかなんとかという話なのですか。どこからそういう算出が出てくるのですか。

○（大武課長） まず、菊池委員から料金の算定基準が必要でないのかということでございますけれども、本年度使用料改定をいたしました。昨年度料金の見直しをしました。その中では費用の回収をするまでの料金収入に至っていないということで、使用料改定上限の1.2倍の670円という料金の設定になったところでございます。よって、詳細にはまだこ

れからやる部分もございますけれども、上限を超えておりますことから、現行の料金の値上げ等については行わないということと、あとパスポートの1.5倍ですけれども、これが妥当なのかどうかというのは、今後の推移も見据えて改めて検討していかねばならないものだと考えてございます。

○（山内部長） 菊池委員、堀川委員から観光の関係につきましてお話がありましたので、私から水族館を観光に結びつけた考え方につきましてお答えしたいと思います。

商工観光部といたしましては、自治区それぞれに大雪山からオホーツクまでのエリアの中で地域の特徴、特出を持った観光資源が相当であると認識しております。特に温根湯再生の事業、さらには今回の水族館の関係でございますけれども、四季折々の特徴を生かすべき水族館というスローガンのもとで温根湯の水族館をつくっているということで、全世界にアピールしてもいい水族館と、このぐらいに私も思っております。春は春、夏は夏、秋は秋、冬は冬のそれぞれの特徴がありますが、特に温根湯の水族館につきましては冬場の部分でいいますと近くに八方台スキー場があります。大雪山に近いということもありましてパウダー状の雪質であることから冬場の合宿関係で相当のチームが来ております。ですから、そういう合宿に来ていただいたスキー客、そういった方々が冬の水族館を見ることによって日本全国にPR発信ができるのではないかと、そういう観光効果も高いという認識を持ってございます。

それと、堀川委員から先ほどご意見がありました高速道路の一部開通でございますけれども、国道39号線の集客を上げて、一分でも二分でも温根湯の道の駅に滞在をしていただいて、さらには水族館を見ていただくと。そのようなことで、上川町、旭川市、そちらのほうの自治体とも連携をとりながら、何とか国道39号線をもとの状態に近づけるということも考えておりますので、水族館のこれからのPRも含めて万全を期してやっていきたいと考えてございま

す。

以上です。

○（若杉主幹） 堀川委員から出ていました1.5の算出根拠でございますけれども、これについては昨年来設計等をしていただいているコンサルの冬期間を営業するかしないかの比較対照の中で、冬期間営業することによって収入を1.5と見た、単純にそういう比較でございます。それに対して歳出がどのぐらいふえるかという光熱水費等を出していただいたという経過がございますが、堀川委員のご指摘のように、現状ではほかの観光施設も単純に夏1に対して冬場0.5ふえるという形には、私どもも捉えられないとは考えております。あくまでも、総体で先生が設定した10万人とございますけれども、私どもは5万人を想定しながら、その中で冬期も営業している水族館、冬期に特化した見るものがある水族館ということで売って行って、1年間を通して5万人を確保したいという目標を持っております。

以上でございます。

○（宮沢委員） いろいろ説明を賜りまして、よくわかりましたけれども、例えば修学旅行とか、そういう誘致も含めてやる場合には、体験型観光というのを取り入れる。旭山動物園の行動展示というような方法をやる。ヤマベの放流を開発局と手を組んで、そういう事業をするだとか。あるいは、イワナだとかを放しているのに対して、イタチだとかカモだとかフクロウ、クマなどに魚をとらせる行動展示みたいな、そういうこともできたら本当に観光客が来るのではないかという気がするのです。それができるかできないかは別にして、カモだとかイタチだとかフクロウぐらいはできるのではないかと思うのだけれども、その辺はどうですか。1年を通じてやる事業というか、プログラムがあれば説明願いたいと思います。

○（菊池委員） いろいろ苦勞しますが、もうつくったわけですから、来てもらうという話になりますね。どうやったら来てくれるかと。例えば遠軽町か

ら留辺蘂に行くところと佐呂間町に行くところの分かれ道があります。それから、もう少し札幌市に近いところでは上川町のあたりがちょうど分岐点なのですが、上川町も通過交通になってしまったのだけれども、要は冬こそ見てほしい水族館とか、冬でもやっている水族館とか、こっちに行ったらあと何分とか、もうちょっとと言えば、遠軽町から留辺蘂に来たときの交差点、T字路ありますね、そこから北見自治区に向かわないで温根湯に向かったら15分かからないですね。10分で行けるのだというイメージのPR、行ってみようという気にさせる。10分だから、往復20分でプラスアルファがあるのだけれども、そういうイメージの看板、表示ということもいろいろ考えて、当初の予定になかったけれども変更するぐらいの何かプラスアルファの宣伝物、看板を立てるといって、勝手な発想ですけども、ぜひ検討していただきたい。冬も来てほしいということですから、相当イメージチェンジをしたものをやる必要があると思いますので、ぜひ取り組んでください。

○(堀川委員) 今の菊池委員とダブるのですけれども、やはり宣伝方法というのが一番なのです。現状ではどうしているかという、我々みたいな民間同士は民間の施設同士で、パンフレットを少なくとも何十軒、ドライブインや施設だとかに置き合いをしているのです。でも、当初から水族館には営業マンがいないのです。これは致命的なのです。それで、何回か言ったことあるのです。でも、年間通してやるということになると、少なくとも指定管理者でまたやるのでしょうか。そうすると、私に言わせると全く素人集団です。この前の委員会でも花のことを言ったけれども、花のことについても全く素人集団だし、今度は水族館のことについても、職員二、三人は引き継いでやるからいいのだけれども、トップは全然素人ですから。でもこれだけのことをやるとしたら、やはり営業をやる。少なくとも支配人だとか、営業兼支配人になるのだらうけれども、民間発想でいうとそういう人を頭に置かないと絶対うま

くないかと。それでうまいこといくのだったら、民間がだれでもやります。民間がやらないのは、もうからないからやらないのだ。だから行政がやるのだけれども、民間で最低限度やっていることもやらないで数字だけは民間以上のことを挙げてきても、そんなものは絵にかいたぼたもちです。私はそう思います。

オープンした1年目、2年目は、さっき言ったような5万人ということにはなるかもわからないけれども、そんな甘い考えで長続きは絶対しないです。やはり宣伝というか、営業というか、開発局に乗っかると。看板のことも今言われましたけれども、温根湯に看板がないと、何十年間我々言ってきましたか。石北峠だって、部長、合併してあなたはやってくれたけれども、合併してもう5年もたつけれども、あれはずっと言い続けて、やっことし立ったのです、あの看板一つ。そういう現状です。そんなことはあなたたちが一番わかっているはずだ、若杉主幹。まの看板だって簡単にできない、宣伝だってできない。それをいかにもできるようなことを言ったってだめなのだ。そういう計画をしっかりとつけてみてください。そして、プロジェクトは庁舎内だけでやっているようですけども、私は民間も入れた中で、それはだれでもいいとは言わないです。余り入れると、意見がたくさん出てぼわっとしたものしかまとまらないのです。だから、少ない人数で、何事もほかが3人いれば絶対できるというのですから、ほかになってやるということ。それだけ集中してやる人が3人いればいいのです。私はそういうふうにはずっと思っているのです。そういう人たちを中に入れて議論しないとだめだと。総合支所長、あなたはどう思いますか。私の言っていることは無理ですか、むちゃですか。

○(亀田委員) 年間パスポートの関係なのですが、1,000円ということで、パスポートになると。細かい話だけれども、個人の特定とかできるようなものにしないとだめですね。これが経費的

にえば330円で賄い切れるのかどうかという問題があると思うのです。1回は670円だけれども、年間だったら1,000円にしますと、パスポートつくったら400円かかりますと。それであれば、全く意味のない話になるのです。1回670円で、その経費の積算も含めてやってみて、そういうところからいくと1回でなくて1年670円でもいいのでないかと思ってしまうのです。だから、その辺のことも含めて整理をしていただきたいと思います。

これは意見でいいです。

○(若杉主幹) 初めに、宮沢委員からご指摘ございました行動展示なり、イタチなどを餌づけする部分を含めてやったらいいのでないかという話でございます。実際これまでの議論でもそういう話がありまして、イトウの水槽、本来はうちのイトウが一番大きいわけですが、あれには例えば動物、ネズミとかそういうものを餌づけするシーンとか、そういうものがあってもいいということで検討したこともございますけれども、実は標津のサーモン科学館でやって、非常に残酷だという話もあってやめているという状況もございます。でも、それは逆な発想で、実際の食物連鎖の話ですから、魚の餌づけとかそういうもので始めていきたいと思っています。ほかの水族館、全国にはマタビを飼って、マタビが小さい魚を食べるというシーンをやっているところもございますが、まだ四つ足動物を飼って、そこまでの行動展示は今のところはまだ深めておりませんけれども、できることからやっていきたいと思っております。

それから、菊地委員からご指摘ございました看板の件ですが、私どももかねてからそれは頭の中にずっとございました。例えば遠軽町は、丸瀬布の雨宮号にしても留辺蘂自治区に2カ所設けてございます。そういう意味では、上川町の高速道路から出たところだとか、遠軽町の丸瀬布の高速道路からおりたところとか、そういった要所要所に看板、そちらへ誘導していくというものが必要かと考えておりますの

で、これらについては検討させていただきたいと思っております。現在山の水族館については、国道沿いに6カ所ございますけれども、それは書きかえなり撤去なりをして、全部市内でございますので、市外に向けてそういったエージェントを含めて考えていきたいと思っておりますし、看板についてもやっていきたいと思っております。

あと、山の水族館の一番の悲しい現実としては、水族館といいながら館長がないというか、博物館的な施設として独立した運営ができていないということが現状としてございます。そういう意味では、営業マンとか、堀川委員から出ておりました積極的に行ける余裕のある人間がないということや素人ではないかというご指摘もありますけれども、これからのいろいろな意味で、水槽が大きくなるということで職員も新たに入れなければならない部分も出てくるかと思っておりますので、営業を含めて積極的にやってくれるように指定管理者とも協議をしていきたいと思っております。あと、若手のプロジェクトチームでございますけれども、民間もということでございますので、それらも含めて検討させていただきたいと思っております。

以上でございます。

○(三田総合支所長) 水族館の最終目標といえますか、温根湯温泉の再生事業そのものもそうですけれども、やはり一人でも多くの集客、お客さんに来ていただくということが目的です。水族館につきましては、これまで冬期間休館していたのを通年開館、営業するという切りかえにつきましても、生き物を飼っているわけですから、経費がやはり1年間かかるのです。だけれども、お客さんが余り来ないから冬場は休もうということだったのでしょうけれども、かかる経費が同じで、もぎりだとかそういうところを付加することによって通年につながっていくのであれば、今回につきましては私は積極策への転換とらえております。先ほど堀川委員も言われましたけれども、計画も確かに若手でプロジェクトを組ん

でありますけれども、どうもそこどまりで、そこから外へ向けての発信というのが今まで不十分だったかという反省もあります。そういうチームに外から入っていただくというのも必要でしょうし、逆に中でまとめた素々案というものを外に出していくと。外に向けていろいろな機関もあるわけですから、そういうところにつつけていく、そしていろいろ話題をさらに高めていくということも非常に必要なことかと、そのように思っております。目的はあくまでも一人でも多くのお客さんに来ていただく、そういう地域にするということですので、私どもも今後そういう観点で何が必要か、何ができるかということをやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○（小川委員長） そのほかご質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○（小川委員長） なければ、以上で留辺薬総合支所からの報告を了します。

暫時休憩いたします。

午前11時03分 休憩

午前11時04分 再開

○（小川委員長） 休憩前に引き続き会議を開きます。

以上で本日の委員会を終了いたします。

どうもご苦勞さまでした。

午前11時04分 閉議
